

中國語の"把"字句に関する諸問題

著者	相原 茂
著者別名	AIHAHA Shigeru
雑誌名	漢文學會々報
巻	32
ページ	(16) - (29)
発行年	1973-06-29
URL	http://doi.org/10.15068/00149228

中國語の“把”字句に關する諸問題

相 原 茂

1・1 本稿は“把”字句に關する問題、およびそれらに關する二、三の周邊的な問題につき少しく私見を述べ、あわせて問題提起としようとするものである。

1・2 一般に“把”字句を論ずるにあたって、次のように動詞による三分類が行なわれる。

A：“把”を用いることができないもの

B：“把”を用いても用いなくてもよいもの

C：“把”を用いなければならないもの

ここでCについては、より嚴密な動詞の附帶成文や賓語に關する規定が豫想される。いずれにしても、この“把”に關する三分類は、その根底に、“把”に積極的、具體的な意味内容を持たせずに、文法的形式素のような機能を果たす「BA」によつて、特定の文の二様の表現形式を想定していることになる、と言つてよいであろう。つまり、上の分類Bにおいては、“把”を用いた文とそうでない文は、嚴密な意味においてではないであろうが、同値のものと考えられているわけである。本稿では、もつぱら、BおよびCに關連して、“把”を介詞であると考えて論をすゝめてゆくことになるであらう。^[注1]

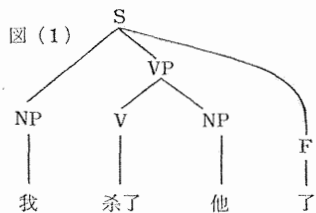
2・1 まず“把”を用いても、用いなくても表現が可能であるような文について考えてみる。これは、“把”を介詞であると考えることによつて、把變形(BA Transformation)が考えられる。

1) 我杀了他了。

2) 我把他杀了。

このような二つの、“把”を用いたものと、そうでないものがあつた時、中國語を話す人の言語直観に照らして考えれば、これら二文の類似性、相關性

が強く意識されると思われるし、これらを記述する時にも、別々のものとして処理するよりは、ある共通の基盤に基く概念構造から、それぞれ所定の操作を経て出来てくると考えた方が、より簡潔で有意義な文法記述が行われると思われる。すなわち、(1)(2)のような文は、その深層構造として圖(1)のような構造をなしていると考え、これに對して、Tba (把變形) を適用したものが(2)であり、適用されなかったものが(1)であると考えられるわけである。なお、把變形は



(3)のような原子的變形からなり、(4)のような構造記述 (SD), 構造變化 (SC) で表わされる。

3) BA附加	4) SD:	X	V	NP	Y	
NP 提前		1	2	3	4	optional →
	SC:	1 _[BA3]	2	φ	4	

(4)のSD, SCにより、文(5)は(5)'となり、(5)''とはならない。(* は不可能な文を表わす)

- 5) 我要学好中文。
- 5)' 我要把中文学好。
- 5)'' * 我把中文要学好。

2・2 それでは“把”を用いた文とそうでないものとの間の意味的差異についてはどのように考えるべきであろうか。(4)において、Tba を optional (隨意的) としておいたわけであり、又變形は意味を變えない、という原則が一般に言われているが、Tba においてはどうかであろうか。次の例文を見られたい。^[注3]

- 6) 我们找到了两匹骆驼。
- 7) 我们把两匹骆驼找到了。
- 6)' ——我们找到的是两匹骆驼。

7)′ ——丢了的两匹骆驼，我们找着了。

(6)′, (7)′ はそれぞれ(6), (7)に對應する意味解釋である。これによれば、Tbaを適用したものと、そうでないものとの間には、かなりの意味的差異があるように思えるが、實はよく見ればこの違いは「兩匹駱駝」が、ある特定のもの（有定）を指しているか、一般的な不特定のもの（無定）を指しているかの一點にあることが了解されるであろう。このことは“把”の機能の重要な一點である。

したがって (7)′ のような「いなくなつたラクダ」という譯し方は、あるコンテキストの存在が必要であり、一般的には「あの、例のラクダ」ぐらいが妥當〔註4〕であろう。この例文では動詞が「找到」であることが、いかにも意味上の差異が大きく解釋される要素になつていると思われる。次の例文(8)および(8)′ などには、實質的にそれほど大きな意味的差異があるとは思えない。

8) 我打碎了窗户玻璃。

8)′ 我把窗户玻璃打碎了。

このことは、又、“把”を用いた文とそうでない文が、あらゆる發話コンテキストの中で、代替可能である、ということの意味しない。たとえば、

9) 你们把两匹骆驼怎么了？

という問いに對しては、答えとしては(7)が選ばれ、(6)は選ばれないことは自明であろう。つまり、どちらの表現形式が選擇されるかは、特定のコンテキストの中で決定されることであり、文と文の意味的影響關係一文間文法一に屬することであり、また廣い意味では言語運用 (performance) にかかわることであり、ここで變形という操作で扱つている、ある構造を持った文が、他の構造へと意味的變化を伴わずに變換される、ということとはレベルを異にすることであると思われる。

にもかかわらず、ある種の意味變化は確かに起っており、これは、何らかの點で形が違つていれば必ずニュアンスの違いがあるはずだ、という素朴な言語直觀の正當さを物語っている。言いかえれば、例文(6)(7)は、同一の深層構造をもち、一方は Tba の適用を受け、一方はそれを受けずに表層構造として、それぞれ派生して來たわけだが、その表層構造においては、嚴密な意味で同一の意味内容を持つとは言えない、ということである。これは深層構造があらゆる

意味情報を與えるものではなく、表層構造において（つまり變形を通して）はじめて付與されるような意味が存在するというに外ならない。ここに意味といわれるものに、二種類認めたわけであり、一方をチョムスキーの用語を借りて「知的意味」と呼び、もう一方の周邊的な意味を原田信一氏の言葉を借りれば「情動的意味」ということになる。つまり、變形は知的意味は變えない^{〔注5〕}、ということである。先の例文(6)(7)は、ともに同一の事態の表現であり、一方は Tba を經て、その表層構造に、情動的意味として少なくとも1つ、有定ということが付與されたものであり、一方は Tba を適用されなかつたものである、ということになるわけである。

2・3 次に、この“把”によつて提前される NP（必ずしも賓語とは言えない）の有定・無定について考察してみたい。一般に“把”によつて提前される NP は、特定の既知のものでなければならない、とされている。

- 10) 我昨天买来了一架收音机。
- 10)/* 我昨天把一架收音机买来了。
- 10)'' 我昨天把那架收音机买来了。

(10) は (10)' のようには言えず、(10)'' のように「一架」を「那架」というふうに、無定とされる數量限定詞を、有定の限定詞である“這、那”などに換えなければならない、とされる。しかし、中國語においては印歐語のように、定冠詞、不定冠詞による明瞭な形態的具現形は存在しないから、有定無定を定式化することは思ひの外困難である。例文を挙げれば：^{〔注6〕}

- 11) 拿酒来。
- 12) 我们把沙漠改造成良田。
- 13) 他把一本书丢了。

この(11)は、有定無定の視點から解釋すれば、「預備好的酒」（有定）とも、「沒有預備的酒」（無定）ともとれる。つまり、有定無定の marker のない「酒」という形式で、兩方の意味を表現しうるわけである。又 (12) は、同様の形式を“把”の後の NP がとりながら、2・2 で言及したように、一義的に有定である。さらに(13)は、無定とされる數量限定詞の例であるが、ここでは“把”の後にあ

つて、特定のものを指しているわけである。このように中國語では、有定の限定詞がなくとも、有定を表わし得るし、無定を示すとされる數量詞であっても、有定を表わし得るといふ事實がある。これは次のように言明される。

14) Md は [+D] に對する十分條件であるが、[+D] は Md に對する必要條件である。ただし

Md: “这, 那” 等の有定を示す限定詞

[+D]: 意味的な有定を示す値

すでに 2・2 で述べたごとく、Tba によつて表層構造に情報的意味として [+D] が付加されると考えたのだから、Tba を受ける NP は必ずしも [+D] という値を持つ必要はないことになる。つまり“把”によつて提前されるものは必ず有定でなければならない、ということはないのである。具體的に言えば^[注7]

15) 他在花瓶里插了一把花。

15)' 他把一把花插在花瓶里。

(15) においては「一把花」は [-D] と考えられ、(15)' では [+D] である。このようなことから、中國語では、數量詞の限定詞であつても、潜在的に [+D] の値を持っていると考えるのが自然であるように思われる。

しかし、以上のようなことから、(13)、(15)' が可能であり、(10)' がなぜ不可能であるかの説明はなされていない。次の例文を見られたい。^[注7]

16) 我卖了一本书。

16)' 我把一本书卖了。

17) 我买了一本书。

17)* 我把一本书买了。

(16)' が可能で (17)' が不可能であるということは、この二文は動詞を除いてはまったく同じであるから、動詞にその要因を求めなくてはならない。王遷の《“把”字句和“被”字句》においては、さらに同様な、“把”で提前できないものとして次のような NP の例が擧げられている。

18) 他作了两首诗。

19) 上星期我缝了三件小褂儿。

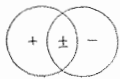
20) 我们联合发表了一篇宣言。

これらの例文から、同書は賓語について「這些事物在有動作以前都是并不“存在”的」(p. 71) という分析をしている。この分析は妥當であるように思える。なぜなら、賓語は動詞による動作のあとに結果として存在するようなものであり、假りにこれを「結果賓語」と呼ぶことにすれば、これは Md がなければ有定の値はとりえないわけであり、 $[-D]$ の値のみを持つことになり、これを“把”で提前すれば、Tba の機能の一つに情報の意味としての $[+D]$ の付與—正確には顯現化というべきであろう—を認めたのだから矛盾し、(17) のような非文法的みな文が生じられるわけである。このようなことから Tba の適用条件としては、

21) $[-D]$ のみを値としてもつ NP

が除かれればよいことになる。すなわち(21)の否定は圖(2)より明らかなように、

22) $[+D]$ または $[\pm D]$ を値としてもつ NP



圖(2) ということになるであろう。したがって Tba の適用を阻止する条件として(21)が定式化されればよいことになろう。

この定式化は結局、VP 内部における NP の嚴密下位区分を行うことであり、“把”により提前される NP がどのような値をとるかは、NP が支配されている VP における V の Tba に關する有效な下位区分にまったく依ることになる。つまり例(16) (18) (19) (20) のように「結果賓語」を NP としてとるような V を假に「結果動詞」とでも名づけておけば、これは Tba に關しての V の下位区分であり、Tba が可能かどうかに対して機能する二分類になり、一方の V の集合からは $[+D]$ または $[\pm D]$ が、もう一方からは $[-D]$ が値として出てきて、一義的に NP に付加される。そして後者の場合のみ Tba が阻止される、ということになる。注意すべきは $[D]$ の値決定は當該 VP の V によるということであり、“把”構文變形の眼目は V にあることが再確認されたことになると思われる。

その具體的な定式化は、(14)により Md をもつ NP は除かれ、さらに冒頭で述べた A 類の V に關しては、すでにレキシコンに記載されている $[-BA]$ で Tba の適用不可能は明らかであるから、その他のたとえば「結果動詞」に対して、

23) $V_{\text{result}} \rightarrow [-D]$ / ただし V_{result} は Complement (補語) を
〔注8〕
 とらない。

というふうにしておくことが考えられるであろう、しかしこれは當然のことながら、ごく基本的な構文における Tba の条件にしかっていないことは言うまでもない。^[注9]

この項を終わるに當つて、有定無定に関する Tba の適用例を見てみたい。
(△は不自然さを示す)

24) 他告诉了他们动身的日子。

24)△ 他把动身的日子告诉了他们。

25) 他递给我一封信。

25)△ 他把一封信递给我。

25)〃 他只把一封信递给我。

(24) がやや不自然に感ぜられるのは、一つの獨立した文として「动身的日子」があいまいな感じをもつからであり、コンテキストの中で「他的动身的日子」というふうに理解されるのであれば、不自然さはなくなるようであるし、(25)も同様である。これらは不可能ではないが中國語を母國語とする人には、ある不自然さを感じさせるようであり、(25)〃のように「只」を加えて、「いくらもあるうちのたった一通の手紙」というふうに限定を明確にすることによつて、はじめて獨立した文として落ちつくようである。したがつてこの△の不自然さは軽いものであらうと想像される。

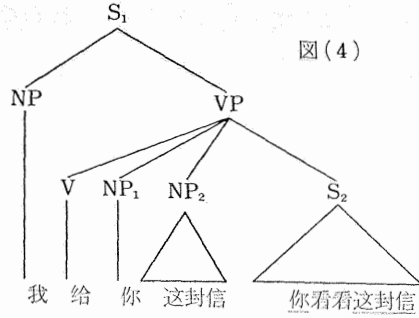
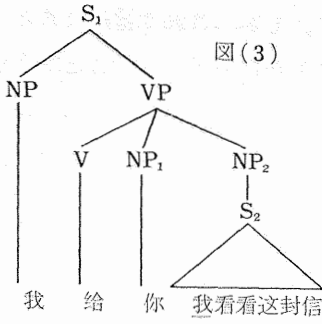
2・4 二重賓語について

二重賓語の“把”變形により提前されるものは、すでに言われているように、直接目的語であり、間接目的語ではない。ここでは二重賓語の問題として、やや複雑な構造をもつ以下の例文をモデルとして Tba を適用することにより、“把”變形の性格を明確にしてみたい。

26) 我给你看看这封信。〈私は君のためにこの手紙をみてあげる^[注10]〉

27) 我给你这封信看看。〈私は君にこの手紙をみせてあげる〉

動詞「給」については、望月八十吉氏が周到な論文を發表しておられ、^[注11]それによれば(26)(27)は次のような深層構造をもつと考えられる。圖(3)は(26)を、圖(4)は(27)を表わす。



(注) 下線部は重出要素消去變形により表層構造には表われない語を示す。

まず、(26)を“把”構文にするには、圖(3)における埋めこまれた文 S_2 に Tba を適用し、

26)' 我给你 s_2 [我把这封信看看] s_2

この派生構造 (26)' から重出要素の「我」を消去すれば、次の (26)'' が適格文として得られる。

26)'' 我给你把这封信看看。

次に(27)についても同様に、圖(4)における埋めこまれた文 S_2 に Tba を行えば、

27)' 我给你这封信 s_2 [你把这封信看看] s_2

が派生されてくるが、下線部が重出要素消去變形で消去されてしまうことにより、結局、

27)'' 我给你这封信看看。

という、(27)とまったく等しいものが出て来ることになる。従つて(27)を“把”構文にするには、 S_2 の上部の S_1 のサイクルで Tba を適用し、ここから、

27)''' 我把这封信给你看看。

を派生し、これが(27)の“把”構文になるわけである。この Tba をふり返つてみると、(26)'' は embedded sentence の S_2 に對して適用されたのに對し、(27)''' は matrix sentence の S_1 に對して適用されていることになる。いずれにしろ Tba は S の内部で行なわれ、また S の内部の要素は Tba をうけても、S の範囲外には出ないということがいえるように思われる。このことは、Tba の適用制限として、次のような假説を述べることができるのではなからうか。

28) Tba は upward (上方) downward (下方) bounding をもつ。

このことは Tba が、單文という單位内で操作が行なわれることを意味する。假説(28)は、たとえば次の例文(29)に Tba を行った場合、(29)'は可能であるが、(29)''は不可能であることを説明する。^[注12]

29) 我请张三翻译中文。

29)' 我请张三把中文翻译。

29)''*我把中文请张三翻译。

ここで、先に挙げた(4)の S D・S C は、二重賓語の Tba のために、(30)のように修正される。

30)	S D:	X	V	(NP)	NP	Y	
		1	2	3	4	5	optional
	S C:	I _[BA4]	2	3	φ	5	

(30)によれば Tba を適用されるものは、賓語 [NP, VP] のみのようであるが、必ずしも賓語とは言えないものも“把”のあとに来れる。

31) 张三把这封信贴上了邮票。

32) 我把花瓶里插上了一把花。

しかし、(31)(32)を“把”を使わない文に直すと、

31)''*张三贴上了邮票在这封信上。

32)''*我插了一把花在花瓶里。

と、いずれも非文法的な文となる。さらに、“把”字句でなければ表現できないものとしては：

33) 你把枪别在身上。

34) 有关部门把大批器材运往工地。

35) 我把棍子藏到衣裳里。

36) 我把那封信夹在一本书里。

があり、いずれも述語動詞のあとに介詞+場所詞というような構造をしており、これらは義務的“把”變形と考えるべきものであり、隨意的なそれとは、S D において明瞭に區別されなければならない。これらについては 3・1 で扱う。

二重賓語の Tba 場合については、基本的には隨意的な變形として處理できると思われるが、胡附・文鍊は(37)のような例を挙げて「是一定要用“把”將其

中一個提前的」(《現代漢語語法探索》 p.127) としている。

37) 我把这个令人兴奋的消息告诉了刚从外面参观回来的同学。

37)′ 我告诉了刚从外面参观回来的同学这个令人兴奋的消息。

⑶7)を⑶7)′のように言えば、確かに不自然さを感じさせるし、理解しやすさという点で劣っている。したがって、容認不可能性の著しく高い文であり、より容認可能性の高い⑶7)のような交替形があるのだから、そちらを選ぶのが自然であろう。しかし、⑶7)′は非文法的な文である、とは断言できず、むしろ文法性は高いものであると思われる。⑶7)′はほとんど使用不可能であるが、それは文法と抵触するからではなく、むしろ言語運用にかかわることであろう。「文法は容認可能な文を成立させる一要素にすぎない」のであるから、不自然な言い方である、とされる文の不自然さが、果して文法によつて説明されるべきものであるか否かは、中國語の研究においても慎重に吟味されなければならないことであると思われ^{〔注13〕}る。

従つて ⑶7)′は、現在の段階ではこれを文法的な文として認め、二重賓語の Tba を隨意的 (optional) なものと考えておきたい。但し、⑶8)以下に見られるものについては、“把”の直後の NP が V の直接目的語であるとは考えられず、かつ、提前されない賓語と V の結びつきが成語的であることから、異つた解釋が必要であろう。ここでは單に例を擧げておくにとどめ^{〔注14〕}る。

38) 跑去把大门上了大闩。

39) 我是把诸位绑了票了。

40) 他便把那话变了个相儿，…

2・5 最後に、これまで述べた把變形では處理が困難であると思われるものについて疑問点を述べ、問題提起としておきたい。それは、北京語においては、次の(41)は、(42)(43)の二様の解釋が可能とされ、(《北京口語語法》 p.50)

41) 张三给李四打了。

42) 张三被李四打了。〈張三是李四になぐられた。〉

43) 张三把李四打了。〈張三是李四をなぐった。〉

さらに(41)が(43)のように解釋されるときは、(44)のような“把”を使つた言い方も

されるという。

44) 张三把李四给打了。

この Tba に関して、望月氏は深層構造において V の間接目的語 NP₂ として埋めこまれた S₂ 内の要素「李四」を、「BA」によつて、母體文 S₁ の主語・述語間に^[注11] 提前することで、(44) の生成を説明しておられる。しかし、筆者の考えでは、このように S₂ 内の要素を直接に S₁ へと移動させることは、(28) の假説で述べられた、upward bounding を破つていることになる。また假説(28)を放棄すれば、(26)、(27)、(29)が、それぞれ (26)'、(27)''、(29)' と變換され、決して、(27)''、(26)''、(29)'' のようにはならない、ということの明確な説明の根拠が失われるように思える。

次に、岩波中國語辭典の同じような、“給=把”の用法と考えられる例について、その Tba が可能かどうかを調べてみると、

45) 有人给衣服揪住了。

45)' 有人把衣服给揪住了。

46) 他给梁有才叫到一边儿。

46)' 他把梁有才给叫到一边儿。

(45)(46)はそれぞれ(45)'(46)'に變換することが可能であるが、逆に今度は(45)'(46)'と同じような構造を持つと思われる文を、“把”を用いずに表現できるかを調べてみると次のような結果になる。^[注15]

47) 我把你的腿给打折。

47)' 我给你的腿打折。

48) 他把所有地，完全给卖了。

48)'[△] 他给所有地，完全卖了。

49) 你把这封信送到邮政局去罢。

49)* 你给这封信送到邮政局去罢。

50) 拿剪子把衣裳给绞了。

50)* 拿剪子给衣裳绞了。

51) 你的袖子把这个碗给拐躺下了。

51)* 你的袖子给这个碗拐躺下了。

以上、見てきたように (i) Tba の適用制限の問題、(ii) 相互變換の不規則性、という二點をどのように考えるべきかについては、今後の問題として、さらに検討を加えたい。^[注16]

3・1 ここで、義務的な把變形と考えられるものについて、その定式化のモデルとして、2・4 で示した(33)~(36)のようなものを、生成變形文法のワク組みの中で、どう処理したらよいか、ということについて聊か私見を述べてみたい。

35) 我把棍子藏到衣裳里。

36) 我把那封信夹在一本书里。

これらの、Prepositional-Phrase は補語といわれ、動詞と密切に結合しており、次の例のように自由に位置を變えることはできない。

52) 他在学校学习英文。

53) 在学校他学习英文。

そこで中國語の書きかえ規則(54)において、

54) i) S → NP + VP(F)

ii) NP → (DET) (S)N

iii) VP → V (NP) (NP) (S) (Prep-Phrase)

(iii) で NP と Prep-Phrase が選擇されたとき、つまり、V—NP—PP の記號連鎖では、Tba が行なわれるわけだから、この PP は、その具現形の一つとして、Tba が義務的に適用されることを示す、代役記號を持っているべきだと考えることができる。つまり (iii) 以降の書きかえ規則の中で、

55) PP → BA-transpose

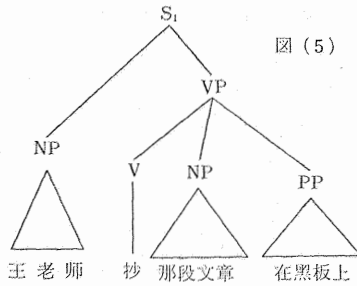
という規則を設ける。そうすれば、たとえば

56) 王老师把那段文章抄在黑板上。

という文は、その深層構造は圖(5)の如くであり、(5)により代役記號があるのだから、(6)の記號連鎖の中で、Tba が行なえるように義務的なものを定式化すればよいのではないだろうか。^[注17]

57) X \widehat{V} \widehat{NP} \widehat{PP} BA-transpose \widehat{Y}

“把”字句に関しては、その構造の特異さからか、しばしば注目され、多くの



研究がなされているが、なお説得力をもつ結論は、中國語の他の諸問題と同様、出されていない。本稿は未整理な私見を述べたにすぎないが、少しでもそれらの問題の究明に貢献する点があるならば幸いである。^[注18]

(1973. 2. 28) (大学院修士課程)

[注1] A類に屬する動詞としては、听见・看見・有・在・進・出……等が擧げられるが、ここではこれらについては論じない。これらの動詞は、たとえば syntactic feature として [-BA] のようなものが、他の諸特徴とともにレキシコンに記載されることになるであろう。

[注2] 構造を示す樹形圖は、不要な部分は省略して書く。以下の圖においても同様。

[注3] 梁東漢「論“把”字句」《語言學論叢》No.2 1958, pp 105—106 の例文と解釋。

[注4] 「あの、例のラクダ」という言い方は、コンテキストのなかで、さまざまな具體的解釋を持つ。たとえば「張三のなくなったラクダ」「張三が見たというコブの三つあるラクダ」等々。

[注5] 詳しい議論については、原田信一「構文と意味」《言語》1973, 2, pp. 2—10

[注6] 例文はいずれも、梁東漢、前掲書 p. 102

[注7] 例文は、王還《“把”字句和“被”字句》1959. 同書 p. 17 に次のような記述があり、本稿の「結果賓語」という假稱は、ここに負っている。「這些賓語所代表的物都是通過動詞所表示的動作而出現的。」

[注8] Vが「結果動詞」であっても次は可能である。

- (1) 昨天我把一本書買錯了。
- (2) 他把兩首詩作得簡直不像詩。
- (3) 我把一件小褂兒縫小了。

以上王還前掲書 pp. 18—19

[注9] 以上のように、基底部に抽象的な [±difinite] のような値を設定することは有効性があると思われる。Anne. Y. Hashimoto 《Mandarin Syntactic Structures》では、[±D] のほかに [φ] (zero) を設定し generic なものを表わすとしている。この [φ] は Topicalization (話題化變形) にとって有効であろう。

[注10] 陳東海先生の御教示によれば、(20)はあいまいであり、表記の解釋のほか(27)のようなく私は君にこの手紙をみせてあげる」という意味にもとれるという。ただし、この場合も、把構文は(26)のような意味のときは(26)'、(27)のように解されるときは(27)''になる。(26)と同構造の文として、

……，張老師給大家看了一些卡片。(語文彙編所收，張文鳳《中學生作文病句分析》p.30)

という文があり、これは〈張先生はみんなに何枚かのカードをみせた〉というふうに文脈からは理解され、〈張先生はみんなのために何枚かのカードをみてあげた〉とは解釋できない。従って(20)が、あいまいさをもつという指摘は正しいように思われる。但し本稿では以下、このことについて詳しく論ずることはひかえ、(20)の表記の解釋についてのみ論をすすめる。

[注11] 望月八十吉『給』について《漢語文法の研究》1971. 所收, pp.73—88

[注12] 望月八十吉「中國語の『はめこみ構造』」前掲書所收, p.23

[注13] Chomsky《Aspects of the Theory of Syntax》1965 pp.10—15 參看。

[注14] 呂叔湘「把字用法的研究」《漢語語法論文集》1955 所收, pp.133—134 より引用。呂氏はこれらを「保留賓語」と呼んでいる。

[注15] 例文(47)(48)は岩波中國語辭典よりの引用であり、(49以下(51)までは、太田辰夫「説“給”」《語法論集》第二集(語文彙編所收)1955, p.139 より引用。なお(47)も不自然さは残るといふ。

[注16] Anne. Y. Hashimoto は前掲論文において、「把」を Verb として扱っている。これは本稿の立場とは異なるが、有意義な示唆であると思われる。また「給」については、Verb と Preposition に分けている。

[注17] Chomsky 前掲書, pp.101—106 參看

[注18] 本稿を執筆するにあたっては、陳東海先生を煩わし、引用例文の可能・不可能・不自然さについて確認と助言をいただいた。また牛島徳次先生からは貴重な文獻を借用させていただいた。末記ながら兩先生に、心から謝意を表明するものである。